

人生100年時代を見据えた保険・金融業界の最新動向



生活研究部 ジェロントロジー推進室 主任研究員
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)

前田 展弘

maeda@nli-research.co.jp



まえだ・のぶひろ

04年ニッセイ基礎研究所。

06-08年度東京大学ジェロントロジー寄付研究部門・協力研究員。
09年度～東京大学高齢社会総合研究機構・客員研究員。

「平成」から「令和」の時代へ、日本は新たな未来へ歩み始めた。迎える未来は本格的な高齢化が進む、人生100年時代とも言われる“超高齢未来”である。そうした未来に向けて私たちにもたらされた大きな課題は、“人生100年を如何に安心して最期まで自分らしく生き抜いていけるか”ということだ。このテーマに取り組んでいくには、一人ひとりの個人だけでなく社会を構成するあらゆる機関の協働が必要である。

すでに行政、大学、企業等、あらゆる機関がこのテーマに取り組んできているが、近年特に精力的な動きを見せているのが「保険・金融業界」ではないだろうか。ここ数年の間に人生100年時代を見据えた新たな商品・サービスを続々と市場に投入してきている。すでに知られた内容も多いかとも思うが、近年に見られる動向の一部を紹介してみたい。

「長生きリスク」の不安に応える商品

人生100年時代を見据えた対応として、「長生きリスク」、つまり長生きできることによって資産が枯渇してしまうリスクに応える商品が提供されてきている。老後に向けて「2000万円が不足」と金融庁が発表し世間を賑わしたことも記憶に新しいが、確かに“お金にも寿命がある”。貯蓄を延々と取り崩していけばいずれ枯渇してしまう。こうした不安に応える商品として提供され始めたのが「トンチン年金」だ。これは年金の受取開始までの死亡保険金や解約返戻金を低くすることで、長生きするほど年金が多くもらえる“長生きするほど得をする”年金なのである。2016年に日本生命のニッセイ長寿生存保険「Gran Age」が発売されて以降、同様の商品が生

保各社から相次いで発売されてきている。「**認知症**」の不安に応える商品等

次に「認知症」の不安に応える商品等の充実をはかる動きがある。認知症にかかる可能性は75歳以降5歳ごとに倍増し、95歳以上になれば8割の人が認知症を患っていると言われる^{*1}。保障対象を認知症に特化した商品が充実してきているなか、三井住友海上火災保険が提供する「認知症事故救済制度」は個人が加入する「認知症保険」とは異なり、自治体が加入する制度であり注目される。認知症患者が誤って踏み切りに入って電車を止めてしまう等、何らかの事故を起こしてしまったときに、監督責任のある家族にその賠償を求められることもある。そうしたリスクを市民全体で回避できるように、自治体の税金を財源として補償する仕組みなのだ。2019年4月に全国初の試みとして神戸市にてこの制度がスタートした^{*2}。

「最期までの安心」を提供する商品・サービス

高齢者の資産を狙った詐欺事件が後を絶たないなか、安心して最期まで個人の資産を保全し継承していくことは本人家族だけの問題でなく社会としても重要なことである。預けた資金はあらかじめ指定した家族などの同意がないと支払いできない仕組みのセキュリティ型信託など新たな信託商品が続々と提供されてきている。また、生活支援を中心に付帯サービスの充実もはかられてきているが日本生命の家族機能代行サービス「Gran Age Star」は注目される。今後、身寄りがない独居高齢者はますます増加していく可能性が高い。晩年、療養生活を迎えたとき、病院の手続きや通院の付き添いだったり、旅立った後の葬儀から遺品整理などの対応は家族が当たり前

のように行っているわけであるが、身寄りがない独居高齢者にとってはそうはいかない。当サービスはこうした家族が行ってきた機能を代行するサービスである。

「健康・予防」を応援する商品

高齢期の不安やリスクへの対応だけでなく、前向きに生きる、健康づくりを応援する保険も登場し始めた。2018年に住友生命から「Vitality」、この4月からは明治安田生命より健康状態に応じ保険料の一部がキャッシュバックされる「ベストスタイル健康キャッシュバック」が発売された。

【図表】保険・金融業界における「高齢社会に対応する商品・サービス」の開発動向^{*3}
資料：筆者作成

①「長生きリスク」対応商品(トンチン年金保険)			
2016	4月	日本生命	ニッセイ長寿生存保険「Gran Age」
2017	3月	第一生命	“長生き”のための新しい個人年金保険「なかいき物語」
	10月	かんぽ生命	長寿支援保険「長寿のしあわせ」
2018	9月	太陽生命	保険組曲Best「100歳時代年金」
②「認知症リスク」対応商品(認知症保険等)			
2016	3月	太陽生命	認知症治療終身保険
	4月	朝日生命	あんしん介護 認知症保険
2018	10月	太陽生命	ひまわり認知症予防保険
	10月	フコク生命	あんしんケアダブル(特約)
	10月	損保ジャパン	リンククロス
		日本興亜	笑顔をもまると認知症保険
		ひまわり生命	
	10月	東京海上	「認知症あんしんプラン」
		日動火災	
	10月	損保ジャパン	「親子のちから」
		日本興亜	
	12月	第一生命	かんたん告知 認知症保険
2019	4月	三井住友	「認知症神戸モデル
		海上火災保険	(認知症事故救済制度)」
③「最期までの安心」を提供する商品・サービス(家族信託、生活サポート)			
2015	9月	三井住友信託銀行	「セキュリティ型信託」
2016	6月	三菱UFJ信託銀行	「みらいのまもり」
2017	8月	みずほ信託銀行	「選べる安心信託」
2018	4月	明治安田生命	「Myアシスト+(プラス)制度」
2019	4月	日本生命	家族機能代行サービス「Gran Age Star」
④「健康・予防」を応援する商品(健康増進型保険)			
2018	7月	住友生命	「Vitality(バイタリティ)」
2019	4月	明治安田生命	「ベストスタイル 健康キャッシュバック」

【*1】厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会(第46回)参考資料1(2013.8.28)より

【*2】厚生労働省「認知症バリアフリーに関する懇談会(第2回)」資料(2019.3.25)より

【*3】全て新聞報道や各社HP等をもとに作成したものであり、事実と異なる可能性はある。記載の年月は商品販売・サービス提供開始時期。